



学校教育目標

自ら求めて学ぶ心豊かな生徒の育成

三豊市立高瀬中学校

〒767-0011

三豊市高瀬町下勝間2725番地1

TEL 0875-72-3161

FAX 0875-73-6188

文責 長谷川 忍

1学期終業式

皆さん、本日で1学期が終了し終業式を迎えることとなりました。充実した日々を過ごせたでしょうか。振り返ってみますと、生徒会が掲げたスローガン「INNOVATE」のもと、生徒主体の体育祭や修学旅行、校外学習など、様々な行事を成功に導いてくれました。また、部活動においても、大会やコンクールに向けて努力を重ね、輝かしい成果を収めています。皆さんが主体的に物事に取り組む姿を、大変嬉しく誇りに思います。始業式で話した、「和」や「チームワーク」を重んじ、「生徒が主役の学校」を実現していくという目標に向かって、皆さんが一步步歩みを進めていることを実感しています。

さて、本日は『情けは人の為ならず』ということわざについてお話ししたいと思います。文字通りに解釈すると、「人に対する情けは、その人のためにならない」という意味に聞こえますが、この言葉の真意は、「人にした親切は、巡り巡って自分にも良い結果をもたらす」ということです。

例えば、部活動において、チームメイトが落ち込んでいる時に励ましたり、練習でうまくいかない時にアドバイスを送ったりする行為は、チーム全体の雰囲気向上させ、結果として皆さんのチーム全体のレベルアップにつながります。チームが目標を達成できれば、それは皆さん自身の喜びにもなります。このように誰かのために行動したことが、巡り巡って自分自身の成長や成功につながります。

「情けをかける」というのは、何も大それたことでなく、小さなことでもいいのです。



- ・廊下で会った先生や友だちに気持ちの良い挨拶をする。
- ・クラスの掃除で、誰も気づかないような場所をきれいにする。

このような一つ一つの行動が、周りの人を笑顔にし、皆さんの周りに良い「情け」の循環を生み出していきます。ことわざ『情けは人の為ならず』は、私たちに「人に親切にすることは、最終的に自分自身の幸せにつながる」と教えてくれているのです。2学期も、この言葉を心に留めて、皆さんが積極的に周りの人に「情け」をかけられる人になってくれることを願っています。それでは、規則正しい生活を送り、安全に気を付けて、有意義な夏休みを過ごしてください。2学期にまた、皆さんの元気な顔を見られるのを楽しみにしています。

「努力と才能」(7.11全校集会)

今日は「努力」と「才能」のどちらが大切かについてお話しします。

才能とは、生まれつき持っている特別な能力のことです。例えば、絵を描くのが自然とうまい人や、スポーツで素早くコツをつかむ人がいます。(モーツァルトは幼い頃からピアノを弾きこなし、作曲もしていました。彼は音楽の才能があったのです。)

しかし、才能だけでは成功は続きません。努力は、何度も繰り返して練習することでスキルを伸ばす力です。(イチロー選手は野球の天才とも言われますが、毎日のバッティング練習を欠かさず、細かい部分まで徹底的に練習していました。)

才能がある人も、努力しなければ成長は止まってしまいます。一方、特別な才能がなくても、努力を続けることで大きな成果を出すことができます。(トーマス・エジソンは発明家として有名ですが、失敗を何度も繰り返しながら努力し続けました。「天才とは1%のひらめきと99%の努力だ」と彼は言っています。)

才能はスタート地点ですが、努力はゴールへ向かうための道しるべです。大切なのは、自分の可能性を信じて、あきらめずに努力し続けることです。

皆さん、どんな分野でも「努力する心」を持ち続けることが、未来の自分を作る鍵になるのです。